
イチ

秋原

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イチ

【Nコード】

N5198D

【作者名】

秋原

【あらすじ】

一人の男の独りなお話。イチたすイチは

控えめな音を出す目覚まし時計のスイッチをオフにして男は起き上がった。

着替えを終えてから寝室を出てキッチンと繋がっているリビングに入る。

「おはよう」

一人暮らしの部屋に、それは似つかわしくない言葉。

男は今日に、朝に、届く訳ない人に、見えない何かに、お世話になっている道具たちに意味もなく声をかける。そんなことをしても部屋には一人だけで、独り身には変わらない。
朝の仕度を黙々とこなす男は家を出た。

独りの男は人で賑わう構内を一人で歩き、満員電車に一人で乗り込み、一人で電車を降り、一人で街を歩き、一人で登校する。

男は大学でも一人だ。

一人で腰掛け一人で講義を受ける。

幾ら人の居るところへ出掛けても男は一人だ。

人混みの中でも男は一人で、人としても男は一人で、話していても男は一人で、一人でいる時もやっぱり独りで、いつでもいつでも男は独りだ。

そんな男は昼食も一人で食べる。

オトモダチに誘われることもあるが男は断ることにしている。食事をしながら喋る気にはなれないからだ。けれど本当は一人じゃなくオトモダチと食事をしているはずなのに独りな気がしてしまうからだ。

男は午後の講義を受けてから一人で大学を後にする。

一人で本屋に寄り、一人でコンビニに寄り、一人で電車に乗り、一人で歩く。

道行く人と擦れ違い、後ろから人にぶつかられ、ティッシュを渡さ

れて、鳴った携帯を手にとっても男は独りだ。

一人と独りは二人じゃない。独りと独りは二人じゃない。たくさんの人たす独りの男はたくさんの人じゃない。一人たす独りは一人と独り。独りの男は、独りの男。

イチ、イチ、イチ。

イチタスイチはただの二なのに男はナニをタシテモ受け付けない。どうしても外せないカッコをツケテイルかのように。

「ただいま」

男は今日に、部屋に、届く訳ない人に、見えない何かに、お世話になっっている道具たちに意味もなく声をかける。だがその言葉を返してくれる人はいない。

本当に一人だけの男の部屋。

安心するようで、寂しい男の部屋。

「おやすみ」

疲れたのか、それとも寂しさを紛らわす為か男は外も明るいの就寝の言葉をリビングに言ってから寝室で丸くなって寝てしまった。その言葉を返してくれる人は、リビングにいないというのに。

この部屋で男はまだ、一人だけの生活を送っていくのだろう。

カッコを外すコウシキを、知っているのはダレなのか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5198d/>

イチ

2011年1月27日00時59分発行